

# 富山 養護施設の子と支援団体



子どもの進路や将来について相談に乗る牟田光生さん(左)=富山市中布目のルンビニ園で

「ルンロンカフェ」と題したトーク会が数年前から富山市中布目の児童養護施設、ルンビニ園で開かれている。若者を支援しているNPO法人などの男女が、さまざまな理由で親元から離れて園で暮らす子どもたちの話し相手となっている。在園中から施設外の大人と交流する機会を増やし、社会でのつながりを増やすのが狙いだ。

(山岸弓華、写真も)

「このユーチューバーが、学校生活や趣味、将来面白いんだよ」「この前、の夢について語り合っていた。和やかな雰囲気の中、入所する高校生たち

おしゃべり相手をしているのはNPO法人「教育研

# つながる。退所後も

究所」(富山県黒部市)理事長の牟田光生さん(44)、

「オフィスカラフル」(富山市)代表の松居和世さん(46)。

ざっくばらんに語り合つ中で、子どもたちが内に秘めている将来やお金に関する悩みについて相談に乗る。

参加した女子生徒は「将来やりたい仕事について話すことができてよかった。背中を押してもらった気がする」と笑顔を見せた。

高校卒業などを機に、児童養護施設を退所した若者は「ケアリーバー」と呼ばれる。ケアから離れるという意味だ。

退所後は早期の自立が求められる一方で、周囲に頼れる大人が少なく、社会から孤立する危険性が指摘されている。厚生労働省が昨年公表したケアリーバーへの調査では「親のサポートがないまま生きるのは大変で、孤独感を覚える」「緊急連絡先に記載できる人がい

ない」との声が寄せられた。牟田さんは「彼らにとつて頼れる大人を少しでも増やしていきたい。彼らが困った時に、相談を受け付けることができれば」と話す。松居さんは「若いうちにいろんな人との関わりを持つことが大事。頼れる人が世の中にこんなにいるんだということを覚えてほしい」と願う。

## 在園中から交流 社会での孤立防止

ルンビニ園では本年度から、卒園生の現況調査を開始。専任担当者を経て卒園生と連絡を取り合い、必要に応じて生活の相談に乗る。「ルンロンカフェ」と合わせ、在園中から退所後に至るまで切れ目なくフォローする試みだ。

銘形高雄園長(68)は「これまで退所すれば『さようなら』で、子どもたちが仕事などを辞めていないか、把握できていないことが多かった。今後は退所後も、長期的なつながりを持つていきたい」と語る。



中日新聞北陸本社 金沢市駅西本町2丁目12番30号 〒920-8573 電話 076(261)3111

◆各種催事の企画・設置・演出のプランナー  
株式会社 金正商事  
株式会社 金(かなしよ)正  
〒920-0061 金沢市問屋町二丁目一〇九番地四  
TEL 076-261-5511 FAX 076-261-5514

2022年(令和4年) 8月14日 日曜日・大安  
購読・試読・転居の連絡は「こちらまで」